

国鉄分割・民営化で不当解雇から26年—2・17労働者集会

2013年2月17日

高知短期大学名誉教授 芹澤 寿良

集会にご参集の皆さん

●私は、1990年から国鉄分割・民営化による国鉄労働者1047名解雇反対闘争支援運動に参加し、とくに「四党合意」問題以降、関係組織の「大同団結」のために、学者・ジャーナリスト6名による「国鉄・JR問題研究会」を結成し、事務局を担当して活動してきた者です。

複雑で厳しい情勢が続くなかで、関係組織の理解と協力を得ながら、2005年7月の、5800人が結集した「国鉄労働者1047名解雇撤回！原告団・闘争団・争議団を励ます7・15全国集会」の開催。9月の、東京地裁のJRへの「採用差別」を不当労働行為と認定する判決の獲得。そして2006年2月16日、「JR採用差別事件の勝利解決をめざす1047名闘争団、争議団、原告団2・16総決起大会」を機とする動労千葉も含む当事者全体による初の共同行動組織—「被解雇者1047名連絡会」の結成。この歴史的流れのなかの初めて体験する感動的運動を忘れることが出来ません。

しかし、こうしたまともな共闘関係は、僅か4ヶ月で終わる結果となり、動労千葉関係を除外した国労、建交労、中央共闘、国鉄共闘の四団体だけの「今こそ解決を共同の力で！6・16集会」の開催から、事情不明のまま 動労千葉サイドの抗議にも拘わらず共同行動はとられなくなってしまいました。

残念ながら、以来、国鉄労働者1047名解雇反対闘争は、「四者四団体」関係の政治解決路線を含む裁判闘争と動労千葉9名の原告団関係の解雇撤回判決追求の裁判闘争に分断されて進められていくことになったのです。

四者四団体の運動は、その後2009年3月の東京高裁の一審と同じ判決と裁判長の「早期解決」要望、9月、民主党政権誕生下での政府と与党三党、公明党の合意による金銭解決案の受け入れ、2010年6月、最高裁で関係訴訟事件すべての一括和解の成立という経過に立ち、肝心の最大の課題—「雇用確保」については、翌年2011年6月23日になって「ゼロ回答」であることが明確にされたのでした。国労と国鉄共闘会議の責任者が即時「やむをえないとして受け入れ」を表明、建交労責任者の反対を押し切って「四者四団体」をその場で解散させています。支援組織の国鉄共闘会議も闘争総括や今後のことを議論もすることもなく、逃げるようにして30日に解散させてしまったのです。本来許されない驚くべきことといわねばなりません。

●四者四団体の「政治的和解」が進められていた10年4月9日に私は下山房雄さんと二人で、要請を受けて動労千葉労組を訪問、田中康宏委員長らと約二時間懇談して、国鉄闘争の今後について意見交換を行い、田中委員長が運動の現状を「闘争の第二段階」と規定して、日本の労

働運動のためにも新たな支援運動の組織化を考えて広く各方面の意見を聞いているところだと話されました。私たちは、現状認識と今後の運動推進方向には基本的に納得できるものとして理解を示すとともに、これまでの同労組の周辺にみられた狭い政治主義的な批判を据えた支援運動ではなく、労働組合運動の原則を据えた、多くの賛同を得られる幅広い運動をスタートさせることを強く期待する趣旨のことを申し上げました。

それから間もなく、新たな全国運動の結成が呼びかけられ、6月13日に、私達は要望、期待したような「国鉄分割・民営化反対 1047名解雇撤回 新たな全国運動」がスタートして、今日まで唯一の組織的な国鉄労働者解雇撤回要求の裁判闘争として東京高裁での控訴審が闘われていることはご承知の通りです。それは、私達が求め期待した運動として展開されていると思っています。

この新たな支援運動に支えられて、弁護団の献身的な粘り強い法廷闘争は、2012年6月東京地裁で、2005年の鉄建公団訴訟の難波判決を超える不採用基準自体を不当労働行為とする「新たな一步を切り開いた」というべき判決をかちとりました。

そして、新しい全国運動らしい「動労千葉・鉄建公団訴訟、解雇撤回・JR復帰の判決を求める東京高等裁判所あて署名のお願い」の運動を呼びかけて控訴審を闘う決意を内外に高く示しました。また私達の周辺でも、今日労働基本権を積極的に行使して諸課題に取り組む動労千葉労組にたいする関心が高まっています。

私も、「四者四団体」の政治解決運動が「雇用ゼロ」で解散されたなかで、「国鉄闘争は未だ終わっていない」という認識のもとに、今回の極めて妥当な新たな呼びかけ内容に名を連ねさせていただきました。みなさんとともに最後まで闘う決意しております。頑張りましょう。

▽「下山房雄のページ」参照

(2013.02.21)

国鉄民営化不当解雇 26年——2 / 17 労働者集会への参加

<http://e-kyodo.sakura.ne.jp/simoyama/120405simoyama.htm>